

雑感（高校同窓生との交流）

林田 明

大阪での万国博覧会は 「輝ける未来社会」のテーマをもとに 10 月で終了したが これからの大坂は どう変わっていくのだろうか。 大阪での高校環境への対応と 同窓生の交流について 振り返ってみた。

大阪の人口は 現在 市内の中心部では増加テンポが鈍り 一部の学校(大学 高校)も郊外へ移転しているが 上町台地には高層ビル マンションが増加している。高津の近くでも 高層ビルが建つようで 学校周辺の人口 社会環境は変わってきている。

ご存知のように かつて 大阪では 府立中学は ナンバースクールとして 当時 閑静な郊外に配置されてきた。第一中学（北野）は十三に 第二（三国ヶ丘）は堺市に 第三（八尾） 第四（茨木） 第五（天王寺）——と続いてきて 第十一中学（高津）で 市内の中心部に設立された。それまでにも市岡 今宮 が市内に設立されてはいるが 市内は商業 工業中学が主であり 地域にたいしての教育行政の意図であったたようだ。

これから 高校授業料 無償化の進展と共に入学希望者は その地区や公・私立にとらわれず 府県内外への流入が増加すると思われる。学校と地域との関係に関して 市や地区、高津など市内高校の対応が気にかかる。

私たちは学区制に応じて 新制高校へ入学したが 私は入学前には 学校の地域や同窓

生と関係はなく その交流にも関心は無かった。 入学後 同級生との交流は 同クラス生との交流が主であって 学年間の交流は クラブ活動等に関係する者だけだったようだ。 卒業後 同窓生に关心はあったが 職場などで 同窓生と一緒になることはあっても 交流が長くつづくことはなかった。 卒業後は やはり 同級生との交流を 懐かしく思い出し 在学中に交流の機会を もっと増やしておけば よかったなあと思い返す。

雑誌文芸春秋に 毎月連続掲載されている「同級生交換」でも（高津は 2004. 4月号 高校6期生 金谷元最高裁判事他。 など過去に4回掲載されてきた） 各学校で 同級生時代からの 親しい交流が紹介されている。 親しい交流が 長くつづくのは 同窓生でもやはり 同級生グループのようである。

これまでの交流は 子供の頃の仲間たちから始まり 家族 近隣 学校 グループ 団体などで経験してきた。 今は 国外から インターネット AI 人間にまで広がっており 交流には 信頼について よく考えていかねばと思う。

それにしても 私たち 90代に入っても zoomの会で 同級時代の想い出を懐かしみつづけられているのは すごいことだなあと思います。

改めて 長い間お世話してこられた 世話人 幹事 関係されてきた方々に ありがとうございます。